

⑱ニンニクを育てよう

病気に強く管理しやすい

中央アジア原産のユリ科のニンニクは、管理が楽で、家庭菜園でも人気の野菜です。秋に種球を植えると翌年の春に収穫が出来ます。疲労回復と殺菌効果があり、風邪などのウイルスにも効力があります。消化機能を高め血液をサラサラにする働きもあります。ニンニクは、ビタミンB1をはじめタンパク質、炭水化物、リンなどの栄養素を豊富に含み成人疾患の予防に良いとされています。



①畑の準備 植え付け2週間前に苦土石灰を1平方メートル当たり150グラム散布してよく耕し、1週間前に完熟堆肥を1平方メートル当たり2キログラム、化成肥料(15・15・15)100グラムを施しうねを作ります。うね幅は80センチ程度とします。マルチで地温を高めると、春先からの雑草予防や病虫害対策になります。

②植え付け 植え付け時期が早いと暑さに負け、遅いと寒さで成長が止まってしまうため、適期(10月)を守って植えましょう。種球は植え付ける前に外皮をはがして小片に分けておきます。小片を包んでいる皮は剥がさず、5~6センチの深さで、条間20センチ、株間15センチの間隔で植えます。育つと、時々わきから細い新芽が出てくるので、この新芽は、根元を抑えて球根ごと引き抜きます。

③追肥 追肥は2回に分けて行います。1回目は植え付けから1カ月後で、緩効性の化成肥料を1平方メートル当たり30グラム株間に施します。2回目は2月中旬~3月中旬頃に1平方メートル当たり即効性の化成肥料30グラムを株間にまきます。

④病虫害防除 ニンニクは病気には強く、害虫もつきにくいですが、アブラムシがたまにつくことがあるので、見つけたら捕殺します。病気は水はけ、風通しや日当たりが悪いと出やすいので環境を整えましょう。

⑤花芽摘み 4月に入るとトウ(花が咲く茎)立ちしてきます。養分が分散されて球が肥大しなくなります。早めに摘み

取りましょう。

⑥収穫 地上部の葉が少し黄色くなってきたら、収穫の合図です。数日間、雨の降っていない晴れた日を選びます。3日ほど晴れた日が続いてから掘り上げるのが理想です(5月中旬~下旬)。長期間保存する場合は、収穫したニンニクの根を切り、20センチほど茎を残し、5~10株ずつ束ねて、3~5日間、天日に干し、その後、軒下など日陰で保存すれば良いでしょう。

(鹿児島市都市農業センター)

平成30年10月11日(木) / 南日本新聞